

研究者	所属・職位	氏名		
	総合グローバル学部・教授	鈴木 一敏		
研究課題	国際経済ネットワークの再構成と国家のパワー			
特別研修期間	2024 年度 秋学期	～ 2025 年度 春学期		
在外研究期間	2024 年 9 月 21 日	～ 2025 年 5 月 31 日 ( 253 日間)		
主な研究機関 又は場所	Harvard University			
研究成果の概要				
<p>経済的依存関係は国際交渉力の源泉となる。特に近年は、安全保障や相互依存の武器化に対する関心の高まりとともにフレンドショアリング、デリスキング、デカップリングなど、非友好国との経済関係を規制・制限する例も増加した。結果として、冷戦終結以降広がってきた、ほぼ全ての国に開かれたグローバル経済のネットワークは、同志国・友好国との関係が密で、非友好国との関係が疎なネットワークへと変貌を遂げつつある。こうした国際経済ネットワークの形状の変化は、国家のパワーにどのように影響するだろうか。</p> <p>これまで国際政治経済学では、1990 年代以降の経済グローバル化による貿易依存の高まりや、サプライチェーンのように何カ国も経由した先からの間接的影響が強い現代の状況を想定した交渉力の指標化が不十分であった。このため、たとえば友好国間の FTA による貿易ブロックの形成や、フレンドショアリング、デカップリング、経済制裁等による国際経済ネットワークの変化が、第三国も含めた特定の国家の政治的パワーにどのように影響するのかを正確に評価することが困難であった。他分野の研究ではネットワーク理論等を用いて交渉力を指標化する試みも散見されるのだが、こちらはパワーの捉え方が国際関係理論におけるパワーや交渉力の概念と乖離していた。</p> <p>そこで、本研究では、国際政治学で論じられてきた非対称相互依存によるパワーの概念を再整理し、それに基づいて相対の交渉力から計算したパワーの指標を作成した。具体的には、敏感性、サプライチェーン敏感性、脆弱性、サプライチェーン脆弱性、情報格差、サプライチェーン情報格差の 6 つの概念を定式化し、特定のリンクの強化や切断が諸国の 6 つのパワーのそれぞれをどのように変化させるのか数値計算可能なモデルを作成し、コンピュータプログラムとして実装した。そして、OECD が発行する国際産業連関表のデータを用いて、世界経済における主要国の近年の依存関係と相対的交渉力の変化との関係を分析した。特に QUAD 諸国(日、米、豪、印)および中国については、過去の指標の変化および仮想シナリオの影響を、他の全ての主要国に対する相対値として詳細に分析したカントリーレポートを作成した。</p>				

以下は、学会、研究会やシンポジウム等で当研究に関連した成果を報告した例である。(2025 年 9 月 25 日現在)

- ・ Workshop, "On the impact of realignment in the international economic networks," Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, October 10, 2024.
- ・ Symposium, "Future of U.S.-Japan Relations in the Age of Division: On Trade," The Deepening of US-Japan Cooperation on 'Non-Military' Aspects, International House of Japan, November 18, 2024.
- ・ Academic conference, "Metrics of bargaining power that stems from interdependence," International Studies Association 66th Annual Convention March 2-5, Chicago, IL, USA, 2025.
- ・ Symposium, "U.S.-Japan Relations: A Model for the World?" March 5, 2025, Wesleyan University.
- ・ Workshop, "Geopolitics, Trade Networks, and U.S.-China Bargaining Power," Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, March 27, 2025.
- ・ Public Seminar, "Geopolitics, Trade Networks, and U.S.-China Bargaining Power," Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, April 7, 2025.
- ・ Research Workshop, "Geopolitics, Trade Networks, and U.S.-China Bargaining Power," Boston University, April 29, 2025.
- ・ Academic conference, "Developing De-linking Tactics in Japan's Trade Negotiations," Asociación Mexicana de Estudios Internacionales(AMEI)-Interntional Studies Association(ISA ) Joint International Conference, Huatulco, Oaxaca, Mexico, June 6, 2025.
- ・ Semminar, "Building Japan's Trade Network in a Changing World," Center For East Asian Studies, School of International Studies, Jawaharlal Nehru University, September 11, 2025.

報告はおおむね好評で、共同研究の申し出や別の研究会での報告依頼等につながったものもある。在外研究においては、これらの公開の場での報告とは別に、成果の概要を当地の専門家に示しコメントを受けた。日本政府の対外経済政策担当者とも連絡を取っており、今後の事例研究を通じて政策評価と政策立案に役立つ枠組に昇華させるための準備をすすめている。